

# チェルノブイリ通信

<http://www.cher9.org/>

NPO 法人  
チェルノブイリ医療支援ネットワーク  
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 2-5-11-5F  
TEL/FAX: 092-260-3989  
E-mail: [jimu@cher9.org](mailto:jimu@cher9.org)



チェルノブイリ医療支援ネットワーク (CMN) は、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、  
現地から求められる医療支援を行います。  
この活動を通して、日本とベラルーシの人びとの心のつながりを深めます。

No.

113

## 特集 2018年度ベラルーシ派遣報告

CONTENTS ベラルーシを訪問して — 現地の医療状況と福島の実況 / ストーリン  
地区訪問で感じた変化と課題 — 現地のニーズに寄り添う支援を目指して  
/ チェルノブイリ支援コーヒー・紅茶 / チェルノブイリ支援古本募  
金 / 【コラム】ベラルーシの一日 / 支援者のお名前とメッセージ



甲状腺がん検診を受けにきたアンドレイさん一家  
(2018年9月、ストーリン地区ストウロガ村にて)

あなたもチェルノブイリを支える一人になっていただけませんか？  
ご寄付を受け付けています。

郵便振替口座 01770-1-65328  
他の金融機関からは 一七九支店 (当) 65328  
楽天銀行 ジャズ支店 (支店番号 201) (普) 7017104  
住信 SBI ネット銀行 法人第一支店 (支店番号 106) (普) 1030416  
※口座名はいずれも「NPO 法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク」

# ベラルーシを訪問して 現地の医療状況と福島 の現状

木村真三（獨協医科大学国際疫学研究室准教授）



(上) プレスト州立内分泌診療所にて。右から山田英雄さん、木村真三先生、ウラジーミル医師、川原、アルツール所長、病院スタッフの皆さん。  
(下) 赤十字移動検診チームの甲状腺がん検診の様子

今年9月、チェルノブイリ医療支援ネットワークでは、2018年度のベラルーシ派遣・調査を行いました。訪問に同行いただいた獨協医科大学准教授の木村真三先生より、現地での様子や、福島と比較した現状についてご報告いただきます。

## はじめに

9月のベラルーシ訪問では、山田先生やチェルノブイリ医療支援ネットワークの河上さん、川原さん、また現地では田中さんにご協力いただいて、チェルノブイリ原発事故後の様子を見ることができました。今回の訪問から見えたチェルノブイリ原発事故後のベラルーシにおける取り組みや、また福島の現状についてご報告したいと思います。

## 国際赤十字移動検診チームの甲状腺がん検診風景

プレスト州では、国際赤十字の移動検診チームが行う甲状腺検診の現場に同行させていただきました。

主力メンバーとして関わるアルツール先生（プレスト州立内分泌診療所所長）のお話によれば、プレスト州では州内16地区について、2年に1回の検診を行っています。検診対象者（観察者）の年齢は、事故当時18歳以下の方々ですが、基本的に「検



1984年生まれのイリーナさんは、2008年第一子の妊娠中に甲状腺に結節が見つかり、2016年にがんが発見され手術を受けた。形成外科的手術を導入し、傷あとはほとんど分からない。



診を受けた」とやって来た人には、年齢に関わらず検診を行っています。受診者の平均年齢は50歳くらいです。

ブレスト州立内分泌診療所できちんと統計を取り始めたのは1997年、チェルノブイリ原発事故から11年後です。州内16地区の全人口と対象者人数の比などが調査されています。

今回同行したのは、ブレスト州ストーリン地区のアフラガラド村というところです。アフラガラド村の人口は9月時点で1802人です。同村の中心がストウロガガ村で、976人が暮らしています。

この村の一般外来診療所（入院施設は有していない）にて、約100名を対象に検診をしました。このうち6人に、甲状腺がんの疑いがあるという結果でした。

検診では、エコー画像診断でがんの疑いがある受診者の細胞を、その場で採取してスライド

グラスへ載せ、組織染色を行います。この穿刺吸引から染色までを、非常に手早くこなしているのが印象的でした。そしてレパラートを病理医へ送り、最終的な診断を仰ぐという流れになります。

ただウラジール先生の見立てでは、おそらく一人は間違いなく甲状腺がんだろうということでした。

その方は高齢の患者さんだったので、原発事故由来の甲状腺がんであるかどうかは断定できません。しかしベラルーシでは、事故当時45歳までの方々は「危険予備軍」として検査対象に入っています。今回の患者さんもこの「危険予備軍」であったこと、また汚染地域に住んでいることから、あながち一般の甲状腺がんとは考えにくい面もあります。

#### 患者さんインタビューより

ブレスト市内では、甲状腺の

手術を経験した方へのインタビューを行いました。

イリーナさんは、1984年、原発事故の2年前にブレスト市で生まれ育ちました。現在は会社経営者です。10歳と双子の5歳の、計3人のお子さんがいます。

彼女は2008年、最初の妊娠時の健康診断で甲状腺に結節が見つかりました。がんかどうかはわかりませんでした。が、穿刺吸引細胞診の結果、悪性ではありませんでした。その後2015年、二度目の妊娠時に、右側の甲状腺の肥大が見つかり、2回目の細胞診を行いました。出産後の2016年、3回目の細胞診でがん（6×7×9ミリ）が発見され、手術を受けました。

術後は毎日150mgの甲状腺ホルモンを服用しているのとこの。身体の調子は良く、十分な睡眠もとれ、魚や肉、牛乳やジャガイモなど、何でもよく食べて



いるそうです。

ちなみに福島県では、病巣部が1センチメートル（10ミリ）を越えなければ手術対象となりません。ベラルーシではイリーナさんのように、非常に小さい病巣部でも手術がなされ、それも穿刺吸引細胞診によってがんを見つけています。こうした技術は、すでに日本のレベルを凌駕していると思います。

がんが見つかったとき、イリーナさんは「なぜ自分がこのような状況になったのか」と非常に不安を抱え、またご家族も心配されたそうです。こうした当事者の心情は日本でも同じです。また術前は、手術について少し不安があったそうですが、自分以外にも多くのがん患者がいることを知り、心配は軽くなったと言われていました。家系の中では、タバコをよく吸っていた父親の弟が咽頭がんだっただけで、甲状腺のがん家系ではないため、おそらくイリーナ

さんのがんは事故由来であろうと思われます。

手術では形成外科的手術が導入され、傷あとはほとんどわかりません。首元に大きな傷あとが残るような初期の手術痕ではなく、もう手術痕がわからないくらいの高い医療技術になっています。

### 福島の甲状腺がんの状況

では、福島の甲状腺がんはどんな状況でしょうか。

福島県では現在、「県民健康調査」の一環で、福島県立医科大学にて甲状腺検査が行われています。この「県民健康調査」検討委員会の「第10回甲状腺検査評価部会」の資料によれば、悪性または悪性の疑いと判断されたのは202人（うち1人は良性結節）でした。  
内訳は次の通りです。

#### ■ 先行調査（検査1回目）

116人（悪性確定102人）



（右）プレスト州立内分泌診療所アルツール所長と、今後の支援プロジェクトや福島との連携について打合せ

（下右）プレスト州赤十字移動検診チームが現在使用している検診車。州内一円の移動検診に長く使われ、老朽化し買い替えが必要な時期に来ている  
（下左）ストーリン地区ストウロガ村で行われた、赤十字移動検診チームによる甲状腺検診の様子





■本格調査（検査2回目）

71人（悪性確定52人）

■本格調査（検査3回目）

15人（悪性確定11人）

ただ、実はこの集計結果から漏れていた症例がありました。

「どうということか」と言うと、「県民健康調査」の甲状腺検査では、次のような判定区分がなされています。

【A1判定】のう胞や結節は認められなかったもの

【A2判定】5.0ミリ以下の結節

【B判定】5.1ミリ以上の結節

【C判定】甲状腺の状態から判断して、直ちに二次検査を要するもの

このうちB・C判定の方は、より詳細な二次検査（詳細なエコー検査、血液検査、尿検査）を受けます。ここで医師が必要

と判断した場合には、ただちに穿刺吸引細胞診が行われます。

一方、それ以外の方々は経過観察という形になります。ただこの経過観察は保険診療となる（県民健康調査の枠から外れる）ため、仮に経過観察後にがんが見つかったとしても「県民健康調査」検討委員会の報告にはあがってきません。

こうした状況について、東京の「3・11甲状腺がん子ども基金」から問題提起があり、マスコミでも取り上げられました。そして再調査の結果、集計から漏れていた悪性患者が11人いたことが明らかになりました。この集計漏れへのフォローは現在進行中で、引き続き注視していかなければなりません。

したがって悪性と確定した患者数は、前述の悪性確定者数と合わせ、計176人となります。

### タブー視される放射能の話題

福島では現在、放射線に対す

る恐怖や不安を感じていても、特にお母さんたちの間では話題にすることができません。放射能、汚染といった話をする中で「放射能に過敏に反応する人」「神経質な人」とみなされるという状況にあるからです。

こうした不安を抱える方々のメンタル面でのフォローとして、福島県二本松市において放射線学習会を行っています。

参加者の相談を受け、カウンセリングを行い、放射線の現状



（右）ストウロガ村診療所での甲状腺がん検査を受けたアンドレイ・ペトロヴエツさん（33）一家。奥さんのナターリヤさん（33）、ヤコフ君（5）、ミラーナちゃん（2）ともに異常は見つからず、ほっとした表情  
（左）今回ストーリーリング地区中央病院では、医師向けの講義も開催。山田英雄さんによる『福島・長崎の被爆』、木村先生による『日本の医療保険システム』について報告された



(上段右) ストーリン地区にて、ブレ  
スト州赤十字移動検診チームスタッフ  
の医師たち。

(下段右) 理事会で報告される木村先  
生 (下段中央) フクシマでの放射能  
が森にとどまる仕組みの説明

(下段左) 木村先生が監修されて二本  
松教育委員会が制作した、福島第一原  
発事故や放射能について学ぶための小  
学生向け放射能教育副読本「一体と心  
を守るために知っておく放射能のきほ  
ん―未来にむかって―」



について、厳しい現実も含めて  
すべて伝えていきます。真実を伝  
えて、現実を受け止めてもらう  
という取り組みをしながら、快  
復者にも引き続き参加してい  
ただき、先輩として自身の心の  
安定につながったという部分を  
グループカウンセリングでフォ  
ローしていただくということを  
続けていきます。

また検査の結果、がんではな  
い良性の結節という診断であつ  
ても、「今後がんになるのでは  
ないか」という心配や不安を当  
人や家族は抱いています。こう  
した心配事や悩みについて、気  
軽に相談できる専門家がいると  
安心できるというのが彼らの切  
実な声です。

文科省では、小中学校で放射  
線教育が導入されました。二本  
松市では、私を中心となり小中  
学校で放射線の授業を行ってい  
ます。二本松市教育委員会と副  
読本を作り、放射能とは何か、  
事故で何が起きたか、今の自分

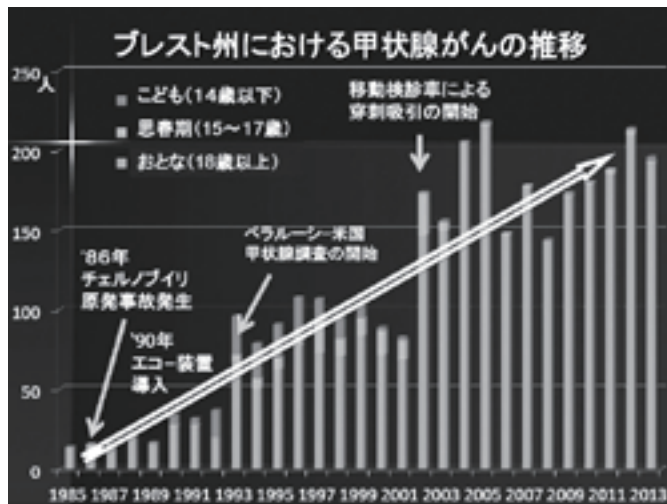
たちの暮らす社会の状況や健康  
面での留意事項、起こりうる差  
別など、子どもたちが自分の体  
や心を守るために知っておいて  
ほしいことについて、一年生か  
ら段階的に学んでいます。

ベラルーシには、25万例を超  
える甲状腺検査の臨床経験があ  
るアルツール先生、ウラジミ  
ル先生らがあり、また自身も甲  
状腺がんの手術を経験してきた  
心理カウンセラーであるリュド  
ミラ・ウクラインカさんのよう  
な方もいます。

こうした方々とながっている  
チェルノブイリ医療支援ネッ  
トワークが、日本でこのような  
不安を抱える方々の支援に取り  
組むことは、福島が直面するこ  
うした問題に対して一番かゆい  
ところに手が届く支援の形では  
ないでしょうか。

今でも見つかる甲状腺がん  
長期間見守ることの大切さ  
ブレスト州では前述のとおり

(右) プレスト州における甲状腺がんの推移を表すグラフ(木村真三先生資料より)。子ども(14歳以下)の甲状腺がんは1995年をピークに、思春期世代(15-17歳)は2002年をピークに減少。しかし、事故から30年以上経っても、大人の甲状腺がんは毎年多数発見されている。診断技術の向上とあわせて、潜伏期間が長いことによる可能性もあり、長期的に見ていく必要があるという。



り、2年に1回の検診が行われています。その結果はグラフのとおりです。

プレスト州のようにチェルノブイリ原発から距離のある地域でも、事故後30年以上経った今でも甲状腺がんが見つかっていきます。したがって潜伏期間が長いがんも含めて考えてく必要があります。あり、経過観察はずっと、何十年も続けていかなければならないというのが私の考えです。このプレスト州のデータは今後の福島を見るためにも、非常に重要であると考えます。

「チェルノブイリでは幼児の甲状腺がんが多発したが、福島ではそうではない」という意見があるように、確かにチェルノブイリと福島は、すべて同じ状況ということではありません。ただこの意見に関しては、日本とベラルーシ、ウクライナでの生活環境の違いを正確に伝える必要があります。

チェルノブイリで、幼児の甲

状腺がんが多発した要因の一つは牛乳です。

日本の場合、牛乳は日本各地から集乳されて混合されますが、ベラルーシやウクライナでは、各家庭に1頭から数頭の乳牛がいて、搾乳し牛乳として自家消費します。つまりチェルノブイリでは、日本のように混合し汚染の濃度が薄まることがないまま、濃縮した形で牛乳を飲むことになり、子どもたちが、たくさん牛乳を飲むことで放射性ヨウ素をたくさん曝露してしまい甲状腺がんになった経緯があります。この背景の部分が説明されないまま、単純に結果だけが比較されがちです。

各々の生活や文化、時代の違いといった背景をふまえ、チェルノブイリ、そしてヒロシマ、ナガサキ、すべてを見ていかなければ福島は見えてこないというのが私の考えです。

ベラルーシでは原発事故後、2万人に甲状腺がんが見つかっています。しかし甲状腺がんが亡くなったのは8人です。甲状腺がんによる死亡率が低いのは、定期的な検診がきちんと実施されているためです。

ベラルーシでは内陸国であるため、海藻類からヨウ素を摂り入れることができず、慢性的なヨウ素欠乏状況でした。ヨウ素は甲状腺ホルモンの主原料で、ベラルーシではヨウ素の不足による甲状腺肥大などの疾患が多く、原発事故前から、新生児検診の項目に甲状腺検査が入っていました。また事故後は毎年甲状腺検査が義務付けられ、受診率は98%となっています。

国をあげて地域医療の底上げによる検診の拡充が取り組まれており、現在のような充実した検診システムが構築されています。日本でも福島のみならず、より広範囲での長期的な甲状腺検査が必要だと思われる。(了)



# ストーリン地区訪問で感じた変化と課題 現地のニーズに寄り添う支援を目指して

川原 秀之（チェルノブイリ医療支援ネットワーク理事、事務局長）



10番病院で打合せする関係者。左から2番目がラリサ医師

## 今回の訪問目的

9月9日（日）から23日（日）までの期間、2018年度のベラルーシ訪問を行いました。

前半はミンスクで現地調査を行い、後半は、97年に甲状腺がん検診プロジェクトを最初にスター

トした、ブレスト州ストーリン地区での国際赤十字移動検診チームの活動に同行しました。原点に戻り、この間の状況の変化や次の取り組みへ向けた情報収集を行うことが目的でした。

また、ブレスト州立内分泌診療所では、福島原発事故の放射能による人体への健康被害についての協議や情報交換と、ベラルーシと連携した今後の福島支援についての綿密な協議を行いました。

ストーリン地区での移動検診チームへの同行は15年ぶり、新たな発見や気づきも多く、来年度も引き続き移動検診チームへ同行して調査を続けることが必要だと感じました。

今回のベラルーシ訪問の様子をご報告します。

## ミンスクでの現地調査

今回のベラルーシ訪問に参加したメンバーは、木村真三先生（獨協医科大学国際疫学研究室准教

授）、山田英雄医療顧問（医療コーディネーター・通訳）、河上雅夫（チェルノブイリ医療支援ネットワーク理事）、川原秀之（同理事・事務局長）と、ミンスクから参加の田中仁さん（ベラルーシ国立大学院生・通訳）の計5名でした。

まずミンスクに3日間滞在し、日本大使館、ミンスク10番病院など関係機関を訪問しました。

日本大使館では、これまでのチェルノブイリ医療支援ネットワークの活動について、8月に着任された金津直人一等書記官と花田朋子さんとお会いし、報告しました。

ブレスト州内分泌診療所や移動検診チームにはまだ必要な医療機器や器具があることを相談したところ、大使館が窓口であるODAの一つ、草の根支援（草の根・人間の安全保障無償資金協力）の活用、申請を勧められました。これはベラルーシ国内の機関が大使館へ申請するもので、後日、ブレスト内分泌診療所のアルツール先

## 今回現地へ届けた支援物質

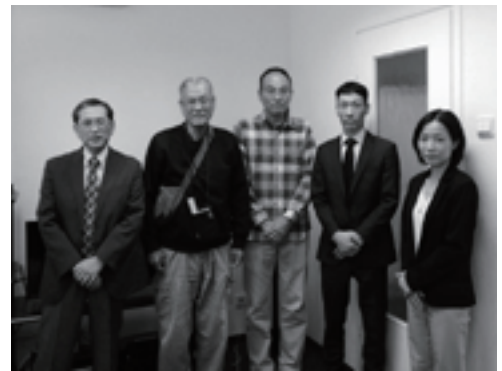
### <ブレスト州立内分泌診療所>

- 日立製作所 カプラゴム 6個
- 日立製作所 穿刺アダプタ 1個 合計 402,840円
- プレパレート 6kg分 (武藤化学様より寄贈)

### <福祉工房 のぞみ 21 >

- 活動支援金 450ドル
- 商品仕入れ 6,105ドル

※カプラゴムのうち、4個は「チェルノブイリ支援コーヒー」購入代金からの寄付、2個は「きしゃぼんリサイクル」買取代金からの寄付により購入させていただきました。



日本大使館を表敬訪問



ブレスト州立内分泌診療所に支援物資を届ける。左からアルツール院長と川原

生にもこの情報を共有しました。また現地パートナー機関の一つであり、内分泌専門の国立病院である10番病院では、ラリサ・ダニロバ医師らと面会し、今回の訪問目的や現在の取り組み状況、今後の医療技術協力について打合せしました。

それからミンスクでは、チェルノブイリ通信111号でインタビューに答えてくれた、チホン・マギリン君にも会って話をすることができました。

中学2年生の彼の甲状腺には

しこりがあります。普段の生活について尋ねると、「僕は好き嫌いせず、特にお肉をたくさん食べるように言われているけど、守っていないんだ。お肉と魚は減多に食べないし、普段の食事はスープとおかゆだよ。妹たちはお肉が好きで一杯食べているから大丈夫なんだ。野菜と甘いものは好きだけどね」と話していました。2人の妹には、しこりは見つかったというふうです。

アルツール先生によると、日常生活ではきちんとシャワーを浴びたり、バランスのとれた食事をすることが大切だということです。彼が日常生活に気をつけている様子はありませんでした。「僕らはめんどくさがりだから、シャワーも週に3回くらいしか浴びないんだ」と、お土産に渡したコアラのマーチをおいしそうに食べながら話してくれました。

ミンスクでは、甲状腺手術後患者や障がいを持つ若者のための

福祉工房「のぞみ21」代表のナターシャさんにもお会いしました。会員さんから寄せられた寄付を届け、商品の仕入れを行いました。

5年ぶりに訪れたベラルーシは、インフラ環境がさらに良くなり、明るい状況にあるのか、市民のみなさんの表情にも笑顔が多く見られました。また、ミンスクはいたるところにゴミ箱が設置されていて、町も驚くほどきれいに保たれています。

ミンスク滞在中の空き時間には、大祖国戦争博物館も訪問しました。館内には小さいお子さんと一緒に家族連れの姿も多かったことが印象的でした。

### ミンスクからブレストへ

13日午後には、特急列車に乗り、私にとつては5年ぶりとなるブレストへ向かいました。到着したブレスト駅は改装され、ミンスク駅同様に洗練された駅に変身しており、その変化に驚くばかりでした。列車は新型車両に変わり、



(右上)「のぞみ 21」代表のナターシャさんと。(左上) 5月に来日講演を行ったリウドミラ・ウクラインカさん、娘のアンナちゃんとも再会。(右下) インタビューに応じてくれた、チホン・マギリンくん。(左下) ゴミ箱も設置され、きれいに管理されたミンスクの街中のようす。

経済に力を入れていることを実感しました。

14日(金)には、ブレスト州立内分分泌診療所を訪問しました。アルツール院長とウラジーミル先生に、武藤化学様よりご提供いただいたプレパレート等を贈呈し、移動検診車の現状や更新について打ち合わせを行いました。

また今回、甲状腺がん手術を経験された4人の患者さんにも、ブレスト市内でお話を伺うことができました。手術後の傷あとの状態や体調等を尋ねると、まだ違和感がある方や気にならない方、ホルモン剤による影響が出ている方など人それぞれでした。

### 移動検診チームへの同行

17日(月)から19日(水)までの期間は、ブレスト州ストーリーン地区ストウロガ村外来診療所で行われた、ブレスト州赤十字移動検診チームによる甲状腺がん検診に同行取材しました。

検診が始まると多くの住民が訪れ、行列ができていました。問診や触診、エコーといった検診は、この日19時過ぎまで続きました。この村での検診は2日間行われ、100名が受診しました。そのうち3名に甲状腺にしこりが認められ、19日に穿刺吸引が行われました。

ストーリーン地区の病院でも、甲状腺がん手術経験のある6名の方々に、インタビューすることができました。多くの方は手術前不安を抱えています。手術後はそのストレスから解放されていること、移動検診に対する大きな信頼が分かりました。

ブレスト州国際赤十字移動検診チームによる検診は、このような流れで、毎週月曜から金曜までの5日間行われます。一ヶ月のうち、3週間をこの移動検診に当て、残りの1週間は、ブレスト州立内分分泌診療所での診察を行っています。

移動検診チームは、移動検診



車を使い州内で年間1万5000人の患者の検診を行っています。この数字は、移動検診が、広範な地域に暮らす被災した市民にとって、かけがえのないシステムだということをお話しています。

現在の移動検診車は、イタリアの赤十字より贈呈されたものです。耐用年数や距離数をすでに大きくオーバーし、老朽化やメンテナンス費が大きな課題となっています。赤十字等からの新たな支援の予定はなく、次の検診車購入のための支援について、以前から相談を受けています。

今回、ブレスト市から数百キロ離れた地方で行う日常的な活動に同行し、過酷な道路状況でフル稼働している検診車の現状と、検診を待つ多くの患者の思いを目の当たりにしました。

ストーリーリンからブレストへ帰る途中、ピンスク市に住むアリョーシャさんを訪ねました。彼女は、2006年にチェルノブイリ医療支援ネットワークと現地の

合同検診で、甲状腺に結節が見つかり、翌2007年に日本で清水一雄先生による甲状腺がん内視鏡手術を受けた方です。

夫と4歳半になる男の子との3人暮らしで、とても幸せそうでした。甲状腺がんになっても手術を受け、きちんと治療を受ければ、家庭を築き子どもも産むことができることを、彼女は身をもって証明してくれています。

### 訪問を終えて

今回は、諸事情により日本からの医師や検査技師の参加はありませんでしたが、福島での被災者支援やチェルノブイリ被害調査の実情に明るい木村真三先生に同行いただいたことや調査に重きを置いたことにより、現地関係者との協議や情報収集、関係者や患者さんへの取材を中心として、実り多い滞在となりました。

かねてから検討していた、ブレスト州赤十字移動検診チームの

活動への同行調査も実現しました。国内や海外からの支援が徐々に削られていく中、チェルノブイリから「まだ」32年しか経っておらず、粘り強く甲状腺がんの早期発見・治療のしくみを継続していかなければならないというのが現地関係者の認識です。

州内全域をカバーし、甲状腺検診に取り組むこの活動を支えることで、私たちの限られた滞在期間での活動を、より大きな成果に結び付けられると考えています。

また今回、チェルノブイリでの経験や知識の蓄積を、どう日本の福島原発事故被災者支援のために活かしていけるか、来年度からの取り組みについて、現地の医療関係者と具体的な協議を行えたことも大きな収穫でした。

現地関係者や患者さんへのインタビューは、次号にてご紹介いたします。ベラルーシの方々の命を支える活動へ、どうぞ引き続きご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

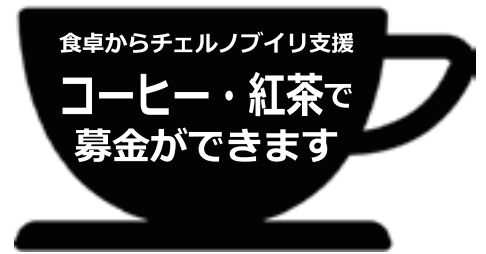
(了)

(上) ブレスト市へ戻る途中、ピンスク市でアリョーシャさんを訪ねる。家族と一緒に幸せに暮らしていると話す。  
(下) ストーリン地区で取材に応えてくれた、オリガ・ヴォロネーヴェツさん。1975年生まれでカザフスタン出身。お土産のお茶を手に笑顔で。左奥はウラジーミル医師。



おいしい有機栽培・フェアトレードのコーヒーや紅茶の購入を通して、商品代金の一部がチェルノブイリ医療支援ネットワークへ寄付されます。食卓からチェルノブイリ支援を！

「株式会社ウインドファーム」のご協力により、ご注文いただいてから焙煎する有機栽培コーヒーや、有機栽培紅茶を購入いただくことで、1袋あたり100円がチェルノブイリ支援のために寄付されます。



## チェルノブイリ支援 有機コーヒー・紅茶

ここ数年間に  
お寄せいただいた  
寄付

■ 2013～2017年度  
136,600円

### 代表的なコーヒー

 <p><b>有機栽培 トセパンコーヒー</b> 《メキシコ産》</p> <p>豆 粉 200g</p> <p>有機栽培特有のコクがあって後味すっきり。自然な甘みをおたのしみください。暮らしと命を支える森の中で育った森林農法のコーヒー。</p>	 <p><b>有機栽培 ソルコーヒー</b> 《東ティモール、メキシコ、グアテマラ、エクアドル》</p> <p>豆 粉 200g</p> <p>ソルはラテン語で太陽。森林農法で栽培された東ティモール・メキシコ、グアテマラ、エクアドルのコーヒー豆をブレンドし、マイルドな味わいに仕上げました。</p>	 <p><b>有機栽培 ブレンドコーヒー</b> 《ブラジル、メキシコ、グアテマラ、ペルー》</p> <p>豆 粉 200g</p> <p>ブラジル、メキシコ、グアテマラ、ペルーのコーヒー豆をブレンド。普通煎りは酸味・苦味・甘味のバランスのとれた味わい。深煎りは程よい苦味とコクのある味わい。</p>	 <p><b>有機栽培 カルロスさんのコーヒー</b> 《ブラジル産》</p> <p>豆 粉 200g</p> <p>ブラジルに有機栽培コーヒーを広めた故カルロスさんの志を商品名に込めました。普通煎りはマイルドな甘味。深煎りは程よい苦味と甘い後味が特徴です。</p>
---	--	--	--

その他のコーヒー・紅茶もあります。カタログご希望の方はご連絡下さい。Webからもご覧いただけます。

	商品名	産地	種類	焙煎度合	内容量	税込価格
こ ー ひ ー	カルロスさんのコーヒー	ブラジル	豆・粉	普通・深煎り・極深煎り	200g	1,200円
	インタグコーヒー	エクアドル	豆・粉	普通・深煎り・極深煎り	200g	1,200円
	ハチドリのひとつしずくコーヒー	エクアドル・メキシコ	豆・粉	深煎り	200g	1,200円
	ソルコーヒー	東ティモール、メキシコ、グアテマラ、エクアドル	豆・粉	普通・深煎り・極深煎り	200g	1,000円
	トセパンコーヒー	メキシコ	豆・粉	深煎り	200g	1,000円
	ブレンドコーヒー	ブラジル、メキシコ、グアテマラ、ペルー	豆・粉	普通・深煎り	200g	1,000円
	コロンビアインスタントコーヒー	コロンビア	-	-	100g	1,200円
	まいるどぶれんどリップバックコーヒー	メキシコ・東ティモール・ブラジル	-	-	12g×10袋	1,200円
	カフェインレスコーヒー レギュラー	メキシコ	豆・粉	深煎り	200g	1,300円
	カフェインレスコーヒー インスタント	メキシコ	-	-	100g	1,300円
紅 茶	アールグレイ紅茶 ティーバッグ	スリランカ	-	-	2g×25袋	800円
	セイロン紅茶 リーフ	スリランカ	-	-	100g	800円
	セイロン紅茶 ティーバッグ	スリランカ	-	-	2g×25袋	800円
	南インド紅茶 ティーバッグ	インド	-	-	2g×25袋	800円

#### ▼ご注文について

電話・メール・FAXにてご注文ください。お届け先が注文者と異なる場合はご注文の際に、併せてお知らせください。ギフト対応可。※コーヒーは豆・粉、焙煎度合のご指定をお願いします。

#### ▼送料について

ご注文合計7,000円以上で送料無料。7,000円未満の場合、以下の送料(税込)をご負担ください／【九州】500円【中国・四国・関西】600円【北陸・東海・信越・関東】700円【東北】800円【北海道】1100円【沖縄】1200円

#### ▼お支払について

商品に郵便局の振込用紙(手数料無料)を別途お送りします。到着後1週間以内に代金をお振込みください。

#### ▼お届けについて

通常期は、ご注文後2～3日以内に発送しております。お急ぎの場合、配達日指定等のご注文の際にご確認ください。

**ご注文  
お問合せ**

**TEL/FAX 092-260-3989  
Email jim@cher9.org**

読み終えた本や DVD、ゲームや書き損じハガキ等をご提供いただき、買取業者さんの査定・換金が、チェルノブイリ医療支援ネットワークに寄付されるしくみです。ぜひご協力をお願いします！

申込受付から査定・報告および送金は「古本基金きしゃぼん」（運営：嵯峨野株式会社）が担当します。古本募金 1 回のご参加につき、きしゃぼんからも 100 円が寄付されます。



## チェルノブイリ医療支援ネットワーク 古本募金

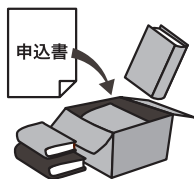
produced by 古本募金 きしゃぼん

これまで  
お寄せいただいた  
寄付

- 2017 年度 78,612 円 (35 件)
- 2018 年度 11 月まで  
132,395 円 (63 件)

### 古本募金の流れ

#### 梱包・申込



宅配業者が伝票をもって  
引き取りに伺います。



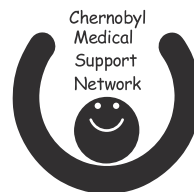
#### 査定・換金

古本募金  
きしゃぼん

きしゃぼんからも 1 件につき  
100 円が寄付されます。



#### 寄付



ご寄付下さった方のお名前と  
寄付金が団体へ届きます。

### お申込み・お問い合わせ

(WEB受付) 24 時間・365 日



チェルノブイリ 古本募金



kishapon.com/chernobyl/

(電話受付) 9 時～18 時・365 日



0120-29-7000

「チェルノブイリ医療支援ネットワークへの寄付」とお伝えください

(運営協賛) 古本基金きしゃぼん / 嵯峨野株式会社 〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916 埼玉県公安委員会 古物商許可証 第 431100028608 号 (F004)

(企画) NPO 法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 2-5-11 コスギ第一ビル 5F TEL: 092-260-3989

12 月 2 日

フリーマーケット in クローバープラザに出店



今回が初めての出店。なかなか苦戦しましたが、女性のお客様が「のぞみ 21」のふきんや弁当包み、ランチョンマット、しおりなどを購入して下さいました。リネンを取扱うお店に販売委託をしてはとのアドバイスもいただきました。次回出展する際には、リサイクル品のバザーも検討したいと思いました。

11 月 25 日

「第 30 回和白干潟まつり」に出店



福岡市東区で開かれた和白干潟まつりに出店。人気はふきんやしおりなど「のぞみ 21」のリネン製品で、リネンの良さを知らる方がここ数年購入して下さい、プレゼントにも使っていただいています。当日は天気も良く、ブースは干潟の真正面で景色も良く、スタッフにとっても気持ち良い一日になりました。

イベント出店報告





10月だより

## 日本文化フェスティバル

### 「ベラルーシにおける日本の秋」



(右上) 着物着付け教室 (右下) 茶道教室  
(左上) 書道教室。いずれもミンスクで開催された2016年「日本の秋」行事より。  
(左下) ベラルーシ国立美術館で開催された、講座「漫画家 水木しげる氏の歴史」の様子。2018年「日本の秋」行事より。

## 秋のベラルーシより

こんにちは！秋のミンスクからです。といっても、10月が終わろうとしているこちらの気温は6℃〜0℃と、西日本の真冬並みの気候です。

そんな中で、毎年この時期にミンスクを中心に催される日本文化フェスティバル「ベラルーシにおける日本の秋」は、現地のベラルーシ人と私たち日本人との友情をより深めてくれる、温かい交流の場となっております。

在ベラルーシ日本国大使館主催で2013年から始まったこのフェスティバルは、毎年9月から11月の期間、各都市で様々な日本文化の紹介行事を開催するものです。

伝統的な茶道・書道・生け花などのデモンストレーションや、近代日本映画上映など日本の現代文化を紹介するものもあり、さらにコンサートやスポーツ競技会など盛りだくさんの内容です。それぞれの分野での日本人スペシャリ

ストやロシア圏の日本文化研究者たちによる実演参加もあり、地元でも大人気のイベントとなっております。非営利の日本文化紹介事業が対象で、参加希望者・団体は大使館広報部に申し込みます。

私も2016年には、地元テレビONT局の研修生として、アニメコスプレ大会、書道・墨絵教室、合唱団コンサート、茶道、着物の着付けレクチャーなど多くのイベントを取材。去年は空手セミナーを見学させていただきました。

今年の第6回「日本の秋」の中では、漫画家【水木しげる氏の歴史】を知るレクチャーに参加しました。講義が行われたベラルーシ国立美術館は、「日本の秋2018」の主催協力者でもあり、9月21〜11月25日の間、【映像と物質 版画の1970年代・日本】展が開かれています。

毎年「日本の秋」フェスティバルを訪れています。日本

田中仁（たなかひとし）／ベラルーシ国立大学在学中から、フリーランスのジャーナリスト、通訳として国内外の新聞や雑誌で活躍中。ミンスク在住。

から来た専門家の方々、ベラルーシ人の現地参加者たちが、このイベントを通じて、お互いの国により親近感を感じて楽しんでいる様子が印象的でした。私たち訪ベラのメンバーが、ミンスク10番病院のラリーサ先生やブレスト内分泌診療所のアルツール先生、ウラジーミル先生たちと協力して仕事をする過程で深まる親交にも、共通するものを感じました。

原発事故の歴史を持つ日本とベラルーシですが、それ以外にも共有できるものが豊富にあることを感じさせてくれます。訪れるベラルーシ人の日本文化に対する関心の高さ、知識の豊かさ、憧れの強さにとっても嬉しくなります。

11月だより

## ミンスク動物園を訪ねて



(右上) ミンスク動物園外観  
(左上) チホン君、アンゲリーナちゃんと筆者。  
スーブリの前で。  
(右下) ホワイトライオンの夫婦  
(左下) ドルフィンプールでのイルカショー

こんにちは！11月、ミンスクでは氷点下になり雪が舞う日もめずらしくありません。

今回は、チェルノブイリ事故から32年が経過した今年4月に取材させてもらった、チホン・マギリン君と妹のアンゲリーナちゃんが案内してくれた、ベラルーシを代表する動物園を紹介します。

11月初旬、14歳になったチホン君は、誕生日に親戚の子供たちと一緒に《ミンスク動物園》を訪れました。町の中心地から地下鉄で約10分の《アフト・ザボドツカヤ》駅で降り、そこからさらにトロリーバスに10分乗れば到着です。

1984年に開園したミンスク動物園には、希少なホワイト・ライオンやホワイト・タイガー、日本では見られないベラルーシのシンボルのなズーブリ（バッファロー）やアイスト（コウノトリ）など、450種類以上の動物が生息しています。毎日10時

から18時までの開園で、入場料は9ベラルシルール（約4ドル）。5歳以下の子供は無料です。

園内には、熱帯林やアマゾン川に生息する動物80種類以上がある《南アメリカ館》、アフリカ・南アメリカ・インドネシアの淡水魚200種類を観覧できる《水族館》、ヘビ・トカゲ・ワニ等が飼われている《爬虫類の館》があります。ほかに、追加料金を支払って入る、2億3000〜2億5000年前に存在した生物と会える《恐竜パーク》（入場料+4ルーブル+2ドル）、イルカのショーが鑑賞できる《ドルフィン・プール》（入場料+平日18ルーブル+9ドル）があります。

チホン君たちが誕生日にやってきた目的は、イルカのショーでした。ショーが開催されるプールサイド内に入ると温かく、平日にもかかわらず家族連れの姿が多くありました。よく調教されたアシカ

やイルカの演技に、子供たちも大喜びで満足した様子でした。

その後もチホン君とアンゲリーナちゃんは、寒くて奥に引っ込んだ動物たちを呼び出しながら、園内を案内して回ってくれました。

日本の場合は動物園、水族園、恐竜博物館と別々になっていて、それぞれの規模も大きく、動物の種類やアトラクションもバラエティ豊かです。でもここで南国から来た動物たちとの触れ合いに、素直に喜ぶ訪問客、特に子供たちの姿を見ると何だか温かい気持ちになります。今回、私を招待してくれたこの子供たちが日本の動物園を訪れたらどんな反応を示すでしょうか。いつまでも純粋な心を持ち続けるのがベラルーシ人の特徴だと思いますが、現地の子供達と触れ合うと、それも決して褒めすぎではないと感じます。

(了)

たくさんのご支援を  
ありがとうございます

(順不同・敬称略)

合計	278,801円
*活動支援金	241,801円
*のぞみ21カンパ	1,000円
*雪だるま3号カンパ	3,000円
*東日本支援カンパ	19,000円
*おまかせカンパ	14,000円

(2018年10月～11月までのご寄付内訳)

●口座受付寄付

浅原望樹 石橋啓子 沖佐和子 小野直子 梶原孝子  
佐藤久美 関根敏子 高橋武三 種和子 林由実子  
【都道府県別】

【宮城県】 1名 【愛知県】 1名 【兵庫県】 2名  
【鳥取県】 1名 【島根県】 2名 【広島県】 1名  
【山口県】 3名 【福岡県】 14名 【佐賀県】 1名  
【熊本県】 1名 【大分県】 3名 【鹿児島県】 1名  
計30名(匿名含む)

※振込用紙記入欄に、通信へのお名前掲載をご承諾いただいた方のみ、お名前を掲載させていただきます。

●月々の定額寄付(マンスリーサポーターの皆さま)

相羽美香子 磯道綾子 一瀬和美 伊藤セツ子 伊藤利恵  
稲田照子 井上礼子 有働聡美 江原健一 延壽富美 大  
麻卓子 大久保伸子 大久保弘子 大崎知恵 太田昌子  
大場満 小黒慈子 落石久子 片山富美子 金山涼子 紙  
森優子 亀川早苗 河上雅夫 川崎君子 川崎清美 川尻  
愛子 木村雅子 倉掛大輔 古賀輝洋 古賀尚子 後藤宇  
企子 財津耐代子 財津悠子 斉藤美代子 阪口香奈子

坂口馨子 佐々野也依 佐竹早苗 佐藤一江 佐藤進一  
佐藤照子 白浜千恵子 末永浩子 首藤展子 高山知佐子  
竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部千鳥 土持秀男・由  
利子・朱加 綱脇牧子 富永隆史 鳥井原桐子 鳥原良子  
永尾ゆかり 中島幸代 中島まゆみ 永野沙智子 西首延子  
丹羽道代 納富育代 深川哲臣 福井初子 福本勅子 藤  
本孝子 淵田三輝 古川恵子 松尾智恵子 松木幸美 松  
永庸子 丸山さより 水本敬子 三野桂子 宮野義治 村  
西美由紀 村松知子 室屋芳乃 矢野和代 山下澄子 山  
中陽子 山本亮輔 吉田美紗子 渡邊久美子 渡邊真志子  
計119名(匿名含む)

貴重なご寄付をお寄せいただき、どうもありがとうございます。  
皆さまよりお預かりしたご寄付は、チエルノブ  
イリ被災者医療支援、福祉工房のぞみ21支援、移動検診  
車雪だるま3号購入の積立、東日本震災被災者支援、事  
務費用等に当てさせていただきます。

皆さまからのメッセージ(一部抜粋)

●いつもわざわざですが、皆様のお役に立ちますよう祈って  
います。●長崎の地からできることの一つとして協力しま  
す。●(きしゃぼんりサイクル募金の古本寄付で)役に立  
たないものがあつた場合は申し訳ありません。少しでもお  
役に立てれば幸いです。●よろしく願います。●キー  
ホルダーありがとうございました。

編集後記

2108年は、5月のリュドミラさん全国報告会・  
コンサート、9月の赤十字移動検診チームへの同行  
取材など活動充実の年でした。特に福島での報告会  
開催や来年度以降への支援や連携へ向けた計画など  
新たな具体的な動きも生まれました。悲しいニュー  
ス、憤るニュースも多々ありますが、少しずつ世の  
中が良い方向へ向かうよう毎日を送りたいもの。新  
しい年もどうぞよろしくお願い致します。(Y・T)

講師派遣

**講師** 派遣を行っています。お友達や  
グループ、地域の集まり、学校  
の授業などでチエルノブイリ勉強会を開催  
してみませんか？小中学校の総合学習、大  
学の講義などへも講師派遣実績あり。まず  
は一度、事務局までお気軽にご相談下さい。

振込

用紙は毎号同封させていただ  
いているグリーンコープ会員の方をの  
ぞく。「思い立った時にいつでも振込みが  
できるように、毎号同封してほしい」とい  
うご要望をいただいたため、決してお振  
込みを強要するものではありません。ご不  
要な方は処分のほどお願い致します。

月々

300円から、手軽にチエル  
ノブイリ支援！ゆうちょ銀行  
で、毎月26日に指定の額の募金を自動引き  
落とし。マンスリーサポーター募集中です。  
手続きは簡単。ホームページが事務局まで。

住所

を変更された方、通信が複数  
部必要な方、今後の送付を希  
望されない方は、事務局までご連絡下さい。

団体

紹介リーフレットを無料配布  
中です。

事故や甲狀腺がん  
現地での活動につい  
てわかりやすく説  
明。お知り合いへの  
紹介や勉強会の際に  
ご利用下さい。窓口  
などに設置してい  
ただけの方も募集中。



A3カラー三つ折

お知らせとお願い

活動の様子や通信バックナンバーなどはホームページをチェック!

チェルノブイリ 医療支援

検索

地球にやさしい再生紙と大豆インクを使用しています